

世界一のゲームセンター史上初！！

夏休みじゃなくても、普段からお子様客が多いファミリーアミューズメント店なのに、
夏だから、あえて怖いクレーンゲームを初めてやっちゃいます!!

夏の暑さを吹き飛ばせ！トイレという密室空間で読む

【怖すぎる怪談キャッチャー】登場



↑エブリディ行田店の
怖すぎる怪談キャッチャー(7/24登場)



↑景品の『日本一怖いトイレットペーパー』
(画像はシリーズ全3作中、1作目のもの)



↑エブリディ ドン・キホーテ太田店の
怖すぎる怪談キャッチャー(7/26登場)

株式会社東洋(本社:埼玉県北本市/代表取締役 中村秀夫)が経営する、1店舗当たりのクレーンゲーム設置台数が240台でギネス世界記録に認定されている「世界一のゲームセンター エブリディ行田店(埼玉県行田市)」と、世界一のゲームセンターの2号店となる「エブリディドン・キホーテ太田店(群馬県太田市)」の両店舗は、『怖さ』で夏の暑さを吹き飛ばし、背筋が凍える様な涼しさを感じてもらえる様に、**世界一のゲームセンター史上初となる怖いクレーンゲーム【怖すぎる怪談キャッチャー】**を登場させました。

【怖すぎる怪談キャッチャー】は、景品に、「リング」シリーズや「仄暗い水の底から」などで有名な鈴木光司氏が書き下ろした“短編ホラー小説”がプリントしてある**『日本一怖いトイレットペーパー』**を採用しました。水気の多い閉ざされた空間は、狭い空間に籠った怨念が、水という媒体によって熟成され、伝播しやすくなるから、怖い話の舞台に最適な様で、それが身近にある空間が、『トイレ』ということの様です。

この日本一怖いトイレットペーパーは、1章10行前後で、全9章で構成されており、『トイレ滞在時間』に手軽に読める点が特長で、シリーズ全3作あり、今回は全3種を景品に採用しました。

行田店、太田店、ともに、使用する景品は全く同じですが、少しでも怖い感じを演出しようと、行田店はガラス面に血の手形を模した装飾をしたり、太田店は景品を掴むアーム自体が、ハロウィングッズの切断された手を用いるなど、それぞれ各店舗、趣向を凝らした台になっております。

こちらの**【怖すぎる怪談キャッチャー】**は、景品のパッケージや、見た目が怖い！で終わることなく、**景品をGETした後に、最大限楽しんで頂ける**様なクレーンゲームになっておりますので、この夏、**景品をGETして、背筋が凍える様な涼しさを感じて頂ければ**と思います。